

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

学校臨床実践コース

記載責任者

佐藤 亨

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

学校臨床実践コースにおいては、教職大学院に入学した現職教員に対して、生徒指導・教育相談における実践力を養成することを目標として、1年次は主として大学における授業を中心に、2年次は勤務校における実習を中心に教育活動を行っている。特に、2年次の実習に関しては、院生本人の問題意識と勤務校のニーズとに応じて課題を設定し、実際に学校において実践活動を行わせる中で、児童生徒との関わり方、教員や管理職との連携のあり方、児童生徒のニーズに応じた授業の構成の仕方、などについての実践力を養成している。

2. 点検・評価

年度目標に沿って、生徒指導・教育相談における実践力を養成することを目標に取り組んでおり、相応の成果を上げることができたと考えられる。1年生に対する授業については、事例検討会やロールプレイを積極的に取り入れ、実践力の向上に努めており、授業評価においても高い評価を得ている。2年生の実習においても、院生の問題意識や勤務校のニーズに応じて、不登校傾向にある児童・生徒の別室教室での支援や相談室における相談活動、学校への適応が難しい子へのTT支援等の活動に取り組んでおり、その活動を通して生徒指導・教育相談の実践力の向上を図ることができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

これまで同様に教員が一体となって教育・学生支援に取り組んでいくことで、教育目標の達成に努める。そのために、①毎週1回コース会議を行い、情報の共有と意見の集約に努める、②毎月1回全院生と意見交換会を行い、コースの運営や教育活動に院生からの意見を積極的に取り入れる、③原則全ての授業において、全教員が参加するTTを行うと同時に、院生全員が参加する合同ゼミを定期的に行い、様々な視点からの指導を組み合わせることで、院生の視野の拡大と力量の向上を目指す。

また、平成25年度のカリキュラム改正に向けて、院生の力量向上のためのより良いカリキュラムに関して、検討を進める。

2. 点検・評価

年度目標に掲げられた①～③に関しては、概ね達成することができた。それによって教員同士の連携を密に取ることができ、コース教員が一体となった教育・学生生活支援を行った。また、平成25年度のカリキュラム改正に向けて、現行の授業の内容について、コース教員全員で検討し、必要な内容を精査した上で、新たなカリキュラムを構成することができた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

これまで本コースでは、事例研究を中心においた授業を積極的に行っており、概ね授業評価も好評である。そのため、より一層その教育的効果の向上を図るために、有効な事例検討会のあり方について検討する。特に、院生の勤務校実習における事例検討会について知見を深め、学校現場における有効な事例検討会のあり方について探っていく。

2. 点検・評価

事例検討会の有効な在り方については、「生徒指導・教育相談の実践と課題」の授業の中で各教員がそれぞれ検討しており、「鳴門生徒指導事例研究」としてまとめるなど、一定の成果を上げることができている。また、2年次の実習において、勤務校における事例検討会を院生が企画し、それに指導教員も参加する中で、学校現場における事例検討会の有効な在り方についても検討を進めることができている。ただし、これらの取り組みはまだ個々の教員の活動に留まっており、コース一体となって相応の成果を上げるといったことまでは行っておらず、今後の課題である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

コースに所属する教員が、高度学校教育専攻の副専攻長やコラボレーションオフィススタッフとして教職大学院の運営に積極的に関わり、円滑な大学運営に寄与する。特に、平成25年度からスタートする専攻の新体制及び新カリキュラムの編成に尽力する。

2. 点検・評価

コースの教員4名全てが、高度学校教育実践専攻の副専攻長、コラボレーションオフィススタッフ、学校臨床実践コース長として、専攻やコースの運営に携わっており、特に平成25年度からスタートする専攻の新体制やカリキュラムの編成にそれぞれの立場から尽力し、新年度の円滑なスタートを切ることができる見込みとなっている。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

①連携協力校との関係を深め、院生の指導だけでなく、連携協力校における事例検討会や研修会に積極的に関与することによって、連携協力校の学校運営に寄与する。
②コースに所属する教員が、これまで同様にスクールカウンセラーや児童自立支援施設におけるボランティアスタッフ等として、学校現場や関係機関の運営に積極的に関わり、その円滑な運営に寄与していく。

2. 点検・評価

①院生の実習の中において、それぞれの教員が連携協力校における事例検討会や研修会に積極的に関与し、連携協力校の学校運営に寄与することができた。また、公開講座として事例検討会を行ったり、個別の相談に応じるなど、修了生に対する支援も積極的に行っており、社会への貢献を図ることができている。
②各教員が、これまでと同様にスクールカウンセラーや児童自立支援施設におけるボランティアスタッフ等として、学校や関係機関の運営に寄与することができた。また、今年度から始まった徳島市の「学校元気アップ推進事業」にコース教員が大学側運営スタッフとして協力しており、円滑な実施に寄与している。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)